

【2022年度 教育連携委員会 事業報告】

委員長校 : 神戸大学

副委員長校: 大手前大学

委員校: 大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫県立大学

計24校

<目的>

加盟校の教育・研究の質を高める「多元的学び」を提供する取り組みとして、加盟校の教育事業についての相互連携、教育資源及びテクノロジー活用に関する相乗効果を図る。

「大学間連携による多様な教育ニーズ」に対応する教育活動を通じて、多様な学生の交流を促進し、学修動機と学修経験の強化、教育効果の向上を目指す。

さらに、学生の所属校の垣根を越えた学びに対して単位認定の道を開くことで、学生が幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性の涵養を図るとともに、コンソーシアム事業への参画の動機づけや、地域貢献活動の実現も期待する。

<内容>

1. 単位互換事業の実施

加盟校において幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や加盟校の特徴を生かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施する。「多様なメディアを高度に利用した」科目等も取り入れる。

2. 多様な学修機会の提供

加盟校に通う学生等に多様な学修機会を提供するため、加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供する。

<期待される効果>

1. 単位互換事業の実施

(1) 「多様なメディアを高度に利用した」授業科目を本格的に取り入れることで、大学間の地理的・時間的課題を解消し、より多くの学生に大学の枠を超えた学びの場の提供をすることによる教育効果の向上。

(2) コンソーシアム事業(国際交流、地域連携、社会連携等)に対する学生への意識づけの促進。

2. 多様な学修機会の提供

(1) 加盟校の教育資源を活用する「多元的学びの機会」を継続的に提供することによる、加盟校の教育事業についての相互連携、教育・研究の質の向上。

(2) 異なる分野の学生等の交流促進による広い視野を持った人材の育成。

課題⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応		予算額
取組1	単位互換事業	590,000円
取組2	多様な学修機会の提供事業	10,000円

【2022年度 教育連携委員会 事業報告(⑦取組1)】

【⑦取組1】達成目標	各年開放科目数10科目以上
【⑦取組1】活動指標	送り出し校数・5校/年

課題⑦	大学間連携による多様な教育ニーズへの対応
達成目標【⑦取組1】	各年開放科目数10科目以上
課題を解決する取組概要【⑦取組1】	単位互換事業の実施
活動指標【⑦取組1】	送り出し校数・5校/年

内容 (結果)	<p>加盟校学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互換事業を実施した。</p> <p>1. 2022年度単位互換事業 昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響下での事業実施となったが、授業形態の多様化により、例年よりも大幅に履修者を増やす結果となった。 (直近3か年の推移は以下のとおり) 2022年度 15校、開放科目数85科目、履修者42名(8大学)※ 2021年度 11校、開放科目数43科目、履修者29名(8大学) 2020年度 15校、開放科目数41科目、履修者 8名(3大学) ※履修者42名の内訳:対面31、非対面11(オンデマンド10、オンデマンドとオンライン併用1)</p> <p>2. 2023年度に向けた取組 ①単位互換協定書締結大学の拡大 ・協定未締結校に対して依頼文書を発出した(11月中旬締切) ・新たに聖和短期大学が協定書を締結した(11月9日付) ・2022年度 協定書締結大学 :35校(28大学、1専門職大学、6短期大学・部) ②広報ツールの制作 学生への周知拡大を図るため、神戸芸術工科大学の協力のもと、ポスターとチラシを作成中。 ③開放科目の選定 12月以降に覚書締結大学へ照会予定。</p>
------------	---

新しい試み等 (事業計画に記載)	
---------------------	--

事業収支	収入	支出	収支	備考
	590,000	562,600	27,400	

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	<p>昨年度に包括協定書の見直し(遠隔授業科目を単位互換科目として位置づけることの明確化)を行ったことにより、今年度は履修者42名と昨年度よりも大幅に履修者が増加した。これまで距離的・時間的制約により履修者数が伸びてこなかったが、教育のICT化により単位互換事業も新たな段階に突入し、今後の学生へ多様な学びの機会の提供に繋がっていきたい。</p>			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>・授業形態の多様化により、昨年度履修者29名から本年度42名(対面31、非対面11[オンデマンド10、オンデマンドとオンライン併用1])となり、大幅に履修者を増やす結果となった。</p> <p>・教育のICT化により単位互換事業も新たな段階に突入し、今後の学生へ多様な学びの機会の提供に繋がって行くことを期待する。</p>
----------------------------	--

【2022年度 教育連携委員会 事業報告(⑦取組2)】

【⑦取組2】達成目標	各年プログラム数5件以上
【⑦取組2】活動指標	参加者数50人以上/年

課題⑦	大学間連携による多様な教育ニーズへの対応
達成目標【⑦取組2】	各年プログラム数5件以上
課題を解決する取組概要【⑦取組2】	多様な学修機会の提供
活動指標【⑦取組2】	参加者数50人以上/年

内容 (結果)	<p>加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供するため、本計画期間内において、段階的に加盟校が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的に提供するするとともに、「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」を加盟校に試行運用の機会を提供した。</p> <p>1. 公開講座等の大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校への開放 7校17件の公開講座等を大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の教職員ならびに学生へ広く開放し、多様な学修機会を提供した。開放校より報告のあった参加者数は計235名であった(情報提供があった5校9講座の集計結果による)。</p> <p>上記の通り、2022年度は当初計画の達成目標(年プログラム数5件以上)ならびに、活動指標(参加者数50人以上)を達成することができた。</p> <p>2. ICTを活用したコンテンツの検討 ■「教育コンテンツ提案」WGの開催(2回、教職員参加者数:計29名) 「大学eラーニング協議会共通基盤教育システム」を教育連携委員会委員校以外の加盟校にも周知を行ったうえで、7月に第1回「教育コンテンツ提案」WGをオンラインで開催し、計7校11名(7月22日に5校7名、別日にて事前確認2校4名含む)が参加した。会議ではコロナ初期、ウイズコロナ、ポストコロナの3期に分けて各大学の実情を報告するとともに課題についての情報共有、オンライン授業等に関する事前アンケートに関する意見交換を行った。</p> <p>第2回は12月19日に「オンライン授業の活用およびコンテンツ制作支援について～第2回「教育コンテンツ提案」WG企画・オンライン～」を開催し、8校18名が参加した。話題提供者に(株)デジタル・エデュケーション・サポート制作運用室・前地純一氏を招き、「オンライン教材づくりのポイントについて」解説いただいた。</p> <p>また、11月には、大学eラーニング協議会 コンテンツ・教材共有部会主催で入学前教育に大学eラーニング協議会のシステムを利用されている大学の事例や、システムの設定方法を紹介するミニ勉強会が開催された。</p>
------------	--

新しい試み等 (事業計画に記載)	
---------------------	--

事業収支	収入	支出	収支	備考
	10,000	19,745	-9,745	

自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	3
	<p><達成目標>各年プログラム数5件以上 <活動指標>参加者数50人以上/年 <2022年度実績> 実施プログラム数18件、参加者数235名(情報提供があった5校9講座の集計結果)。評価としては当初計画を達成しており、プログラムを継続してもよいと思われる。</p> <p>①公開講座等の大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校への開放 今年度から多様な学修機会を提供するために加盟校に通う学生等に開放できる公開講座等を開放したことで、授業とは異なる新たな気づきを学生に芽生えさせることができた。</p> <p>②ICTを活用したコンテンツの検討 コロナ禍の影響で殆どの大学がオンライン授業を実施した中で、WGを実施して各大学の実情と課題について意見交換を行ったり、外部講師を招いてオンライン教材の作成に関する講習会を実施し、新たな授業方法を工夫する機会を提供できた。</p>			

■自己評価基準
(対到達目標)

4:当初計画を上回って達成
3:当初計画を達成
2:当初計画をやや下回った
1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

4:本プログラムは継続すべき
3:本プログラムは継続しても良い
2:本プログラムの継続には改善が必要
1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<p>加盟校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加盟校の公開講座を広く開放し、多様な学生の交流を促進し、学修経験の強化を引き続き図って頂きたい。</p> <p>また、eラーニングシステムについても、加盟校全体に周知を行い、加盟校全体のICTを活用した教育資源の向上の相乗効果を行って頂きたい。</p>
----------------------------	--

2022年度 教育連携委員会 事業決算

(単位:円)

	予算	決算案	取組1			取組2			委員会 予算・決算案			
			単位互換事業			多様な学修機会の提供事業						
			内訳	予算額	決算案	内訳	予算額	決算案	内訳	予算額	決算案	
収入	会費収入	700,000	700,000		590,000	590,000		10,000	10,000		100,000	100,000
	助成事業収入	0	0									
	受託事業収入	0	0									
	プログラム収入	0	0									
	雑収入	0	0									
	戻入金	0	0									
	計	700,000	700,000		590,000	590,000		10,000	10,000		100,000	100,000
支出	会議費	10,000	0	検討委員会開催費	5,000	0	検討委員会開催費	5,000	0			
	旅費交通費	10,000	16,350	検討委員会調査費	5,000	0	検討委員会調査費	5,000	0	交通費(加盟校訪問等)	0	16,350
	通信運搬費	0	41,030	チラシ発送費	0	41,030						
	消耗品費	0	7,160	消耗品(封筒等)	0	7,160						
	新聞図書費	0	0									
	印刷製本費	160,000	84,730	ポスター・チラシ制作費	160,000	83,290				コピー代	0	1,440
	光熱水料費	0	0									
	賃借料	0	0									
	保険料	0	0									
	謝金	80,000	99,250	ポスター・チラシ謝金	80,000	80,000	講師謝金	0	19,250			
	租税公課	0	0									
	支払手数料	2,000	3,135	振込手数料	2,000	1,980	振込手数料	0	495	振込手数料	0	660
	諸会費	0	30,000							大学e-ラーニング協議会年会費	0	30,000
	委託費	428,000	349,140	単位互換HP更新費	338,000	349,140				各プログラムHPに係る予備費	90,000	0
	人件費	0	0									
	接待交際費	0	0									
	支払支援金	0	0									
雑費	10,000	0							委員長校・副委員長校連絡調整等	10,000	0	
計	700,000	630,795		590,000	562,600		10,000	19,745		100,000	48,450	

収入－支出	69,205
-------	--------